

若き友へ

所感 03 - 02 雪と氷の美の国から

2003年4月6日

経済学部教授 高島 均

雪の結晶を見たことがありますか？小学生の頃、理科の時間に習って、それでは見てみましょうとの先生の言葉に、皆で校庭に出て、袖に降りかかる雪を、虫眼鏡で見たことがあるでしょう。でも、虫眼鏡で見た雪の結晶は、不完全で、教科書に載っている素晴らしい形を偲ぶことができる程度で、それも、あっという間に融けてしまった記憶があります。雪って、そんなものだと思っていました。ところが、ここミシガンでは、雪は教科書に出ている結晶の姿そのままです。

[snow.cristal.jpg](#)

雪が珍しくて仕方がないメキシコ人の友人が、しげしげと降りかかる雪を見て発見しました。ここでは、雪は、結晶のまま降ってくるのです。理科の教科書に載っているのと全く同じ形です。それも、肉眼で見えるほど大きな結晶で、2mm から大きなものでは5mm ほどあります。その結晶がそのまま降り積もっていくのです。その様子は、秋の落ち葉が降り積もるようです。カサカサ カサカサと音を立てながら落ち葉は降り積もりませんが、雪の結晶は無言で降り積もっていきます。気温が低く、湿度が低い所為だと思いますが、網走でも釧路でも、そのような記憶はありませんでした。知らなかっただけかもしれませんが。風が吹くと、降り積もっていた雪の結晶は、湯煙のように大地から湧き上がり、はたまた家々の屋根から噴出し、川の流れとなって空中を流れていきます。

4月に入って春も間近と思っていたら、冷たい雨が降り、やがて雪に変わりました。春の淡雪だろうと思っていたのですが、翌朝、外に出てびっくりしました。そこあそこの木々が、朝日を浴びて光り輝いています。そこら中の中の木々の枝に、凍り付いた雨だれが、暖簾のようにびっしりと付き、ありとあらゆるものが、クリスタルで出来ているように光り輝いているのです。モミの木の小さな葉っぱ一つ一つにも、雨だれがそのまま凍り付いたように、水晶で出来た耳飾りのような氷がびっしりとついています。朝日を浴びて、辺り一面が光り輝いています。ケイがカイを助けに乗り込んだ氷の女王の国は、きっとこんな姿をしていたのではないのでしょうか。十数年前に、小さな子供を連れて歩いたロッキーの岩山が、朝日に光り輝きながら私達を迎えてくれた、その美しさとはまた違った美しさです。氷細工で出来た街は、昼になっても、翌日になっても変わらずに、私達に造詣の美を見せてくれています。

首都ワシントンでは、ポトマック川の桜が咲き出したようです。でも、ここミシガンは、春の訪れを前に、氷の国の美しさに輝いています。今日4月6日から、夏時間になりました。